

【千葉市教育施策の基調】

◎人間尊重の教育

子どもたち一人一人を尊重し、調和のとれた発達が図れるよう、子どもたちのよさや可能性を大切にできる教育
未来を切り拓くことのできる
健やかな子どもの育成

【千葉市学校教育推進計画】

◎目指す子どもの姿

夢と思いやりの心を持ち、未来を拓く子ども

◎教育目標

自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力をはぐくむ

【千葉市学校教育の課題】

◎「わかる授業の推進」

◎「楽しい教室・夢広がる学校づくり」

【学校教育目標】

心身ともに健康で、自主・自律の精神や豊かな創造性と実践力をもつ生徒の育成

【求める生徒像】

◇自主から

- ・見通しをもって主体的に学習する生徒
- ・自ら考え、正しく判断し、実践する生徒

◇寛容から

- ・豊かな心を持ち、相手を思いやる心優しい生徒
- ・美しいもの・崇高なものに感動する感性の高い生徒

◇錬磨から

- ・明るく健康で、体力の向上に努める生徒
- ・困難に立ち向かい、自らの力で克服しようとする生徒

【求める教師像】

- ・愛情をもって、支援する教師
- ・信念と謙虚さを持ち、研鑽する教師
- ・英知と情熱をそそぎ、協働する教師
- ・信頼にこたえ、躍動する教師

【学習指導要領】

◎趣旨

- 「生きる力」の確実な育成
- ・基礎的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成
- ・自律、協調、思いやりの心など豊かな人間性の育成
- ・たくましく生きるための健康や体力の育成
- ・社会に開かれた教育課程の実現
- ・「主体的・対話的で深い学び」の推進
- ・カリキュラム・マネジメントの充実
- ・目指す資質・能力の明確化
- 「知識・技能」
- 「思考・判断・表現」
- 「主体的に学習に取り組む態度」

◎ 学校経営方針・・・学校目標の具現化を目指し、以下の4項目を学校経営の柱とします。

- (1) 人間尊重の教育・・・生徒個々の心に寄り添い、自分は大切にされているという実感を味わうことができる支援
- (2) 生きる力の育成・・・生徒が主体的に取り組むことのできる活動の設定と体験活動の充実
- (3) 教育環境の整備・・・施設のみならず、人的環境にも配慮した整備の推進
- (4) 開かれた学校づくり・・・学校、家庭、地域の更なる連携強化を目指した行事運営及び、情報発信

◎ 経営の重点・・・学校教育目標の具現化を目指し、以下の8項目を重点として学校経営を推進します。

- (1) 学年・学級経営充実 (2) 学習指導の充実 (3) 生徒指導・教育相談の充実と生徒活動の活性化 (4) 特別支援教育の充実
- (5) 豊かな心の醸成 (6) 教職員の資質・能力の向上 (7) 開かれた学校づくりの推進 (8) 安全・安心な学校づくりの推進

◎ 具体的目標・・・経営の重点における各項目について、具体的な目標を設定し取り組みます。

(1) 学年・学級経営の充実

- ・明確な経営目標を持ち、生徒個々の個性の伸長を図るため、教師・生徒が、それぞれ相互に補完し合う学年・学級づくりに努める。
- ・多面的な生徒理解に努め、生徒一人一人の特徴が生きる学級づくりに努める。
- ・生徒一人一人が、満足感・成就感・自己有用感を味わうことのできる教育活動を実践する。
- ・一人一人に寄り添い、おかれた状況や特性に応じた指導、支援に努める。
- ・学年間・学年内の情報共有を徹底し、同一歩調での指導に努める。

(2) 学習指導の充実

- ・基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させるとともに、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむことで、確かな学力を育成する。
- ・実態を踏まえた学力向上アクションプランを立案するとともに、教科等でつきたい力を明確にする。
- ・学習課題を明確にした授業を実践し、わかる授業を推進する。
- ・積極的な授業改善に努めるとともに、生徒の意欲を喚起することのできる評価を行う。
- ・GIGA スクール構想のねらいを踏まえ、ICT 機器の積極的な活用を促進するとともにギガタブの効果的な活用に向けての研究に取り組む。

(3) 生徒指導・教育相談の充実と生徒会活動の活性化

- ・生徒指導部会・教育相談部会を充実させ、全校体制で生徒指導・教育相談の推進を図る。
- ・事案に応じて、関係機関と連携した対応に努める。
- ・生徒と教師の相互信頼に基づいた望ましい人間関係づくりに努めるとともに、日常的な会話から問題等の早期発見、早期対応を図る。
- ・ふれあいアンケートやいじめ調査を適宜実施し、学校いじめ防止基本方針に則った対応を心掛けるとともに、速やかな問題解決に努める。
- ・生徒の自治意識を涵養するために満足感・達成感が味わえるような行事への参画を促す。
- ・学級活動の内容精選と充実を図るとともに、仲間の良さに気づくことのできる場を設定する。
- ・心身ともに健やかな成長を図るため、ガイドラインを遵守し、生徒の人格を尊重した健全な、部活動を行うように努める。
- ・生徒及び家庭に寄り添い、それぞれが「大切にされている」実感のもてる関りを行う。

(4) 特別支援教育の充実

- ・一人一人の教育的ニーズに応じた基礎的な環境整備に努めるとともに、保護者との合意形成のもと、合理的配慮の提供に努める。
- ・校内委員会で、個別の支援計画や指導計画を作成し、一人一人の教育的ニーズを共有できる環境を整え、必要に応じた支援、指導に努める。

(5) 豊かな心の醸成

- ・読書の質的向上と言語環境の充実を図るため、朝読書の充実に努める。
- ・「特別な教科 道徳」の取組を充実させ、道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度を育てる。
- ・ボランティア活動の推進を図り、他者理解と自己有用感の感得を促す。
- ・環境美化、清掃活動への取組を充実させ、美化意識と感謝の気持ちを育てる。

(6) 教職員の資質・能力の向上

- ・教科の学習指導要領を理解し、日々の授業での実践に努める。
- ・校内研修を充実させ、指導力の向上を目指す。特に全職員が関わり、若年層教員の研修機会を充実させる。
- ・教科のみならず、教育活動全般にわたる最新の教育情報や技術を身に付けるために、校外で実施される研修に積極的に参加する。
- ・信頼される学校づくりを目指し、コンプライアンスに関する研修を推進する。

(7) 開かれた学校づくりの推進

- ・PTAや学校支援地域本部その他、地域諸団体が企画する行事への職員の参加を通し、地域、保護者との信頼関係を築く。
- ・学区小学校との情報交換の場を数多く設定し、連携強化を図る。
- ・学校の教育活動に理解と協力を得るため、学校だより、HPを通して保護者や地域への情報発信に努める。
- ・学校評価の効果的な活用を図るために、評価項目を検討するとともに評価結果の適切な公表に努める。

(8) 安心・安全な学校づくりの推進

- ・日々の安全点検及び修繕を通して、安全な校舎管理をする。
- ・教科等を横断した防災教育の充実に努める。
- ・被災時に正しく判断し、行動できる生徒の育成を目指し、様々な場面を想定した防災訓練を実施する。
- ・感染症予防の啓発並びに校内の衛生管理に努める。
- ・「生命の学習」「命を守る学習」を通して、命の大切さを実感できる活動を充実させる。

教育課程・・・学校教育目標の具現化を目指し、教育活動を実践するための教育課程を編成します。

編成の基本方針

- (1) 法令及び学習指導要領、県、市の教育委員会の指導方針に基づく。
- (2) 学校教育目標の具現化を目指し、各領域との調和や本校の特性を生かした教育活動を計画する。
- (3) 本校の地域性、生徒の実態及び学校規模、教職員の構成等を配慮する。
- (4) 特色ある学校、生徒活動のさらなる活性化を目指し、全職員の共通理解の基に編成する。
- (5) 学習指導要領に沿って編成をする。

年間授業時数（標準時数）

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳	特活	総合	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015

研究・研修計画・・・学校教育目標の具現化を目指し、教職員の資質・能力の向上のために研究・研修を推進します。

研究主題

自己の在り方や生き方を主体的に考えることのできるキャリア教育の実践

～ 4つの \textcircled{A} を意識させた授業づくりを通して ～

みとめあう力（人間関係形成・社会形成能力）

みいだす力（課題対応能力）

みつめる力（自己理解・自己管理能力）

みとおす力（キャリアプランニング能力）

研究の目的

各教科等の授業を通して、キャリア教育における基礎的・汎用的能力を意識させた学習を行うことにより、生徒が自己の在り方や生き方を主体的に考えられるようになることを明らかにする。

研究内容

- (1) 教師がキャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力である「自己理解・自己管理能力」および、「キャリアプランニング能力」を育成するため、各教科等で身に付けさせる力を明確にした上で指導を行う。
- (2) キャリア教育を推進していく上で、生徒が各活動において目的を明確にするとともに、確実に評価することが必要であるとする。そのため、特別活動・総合的な学習の時間・キャリア教育の各部会で行事を分担し、3年間を見通したキャリアパスポートを作成することで生徒の変容を観察する。
- (3) キャリア教育における意識調査を年に2回と各教科における意識調査を年に2回実施し、その変容から生徒の実態を測る。